

同時資料配布先:

経済産業記者会

学研都市記者クラブ

2016年12月26日

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構

韓国 KCRC との CCS に関する技術交流について

当機構は、韓国における CCS^{*1} 研究開発の推進組織「韓国 CCS 研究開発センター (KCRC: Korea CCS R&D Center)」と CCS に関する技術交流を行うため、MOU (Memorandum of Understanding) を締結いたしました。また、来年2月にキックオフ・ワークショップを行い、以後、両国の CCS 技術の進展に向けて、継続して交流を図ってまいります。

※1 CCS (Carbon dioxide Capture and Storage): 大気放散前の二酸化炭素を分離・回収し、地中へ貯留する技術

1. MOU の締結について

当機構は、設立以来、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素 (CO₂) の大気中への排出削減の重要な技術と期待される CCS について調査・研究開発を行っており、世界でトップレベルの研究成果を上げています。また、これまで、海外の大規模プロジェクトを手掛ける研究機関等をはじめ、この分野の研究機関と国際的な技術交流も活発に行ってまいりました。

この度、韓国の CCS プロジェクト「Korea CCS2020 Project」の推進組織である KCRC と、継続的な技術交流を行うことについて MOU を締結いたしました。

本 MOU は、CCS に関する最新技術や研究開発動向について情報交換を行い、研究者の育成や将来の共同研究を見据えた交流を行うことを目的としています。

2017年2月に KCRC のプロジェクトに参加する研究者を当機構に迎え、キックオフ・ワークショップを行い、これを皮切りに両国の CCS 技術の進展に向けて、継続的な技術交流を行ってまいります。

2. MOU の主な内容

当機構と KCRC は、以下の協力を実施してまいります。

□ 協力する領域

- 1) 次世代の CCUS^{*2} 技術の研究開発
- 2) 安全な長期 CO₂ 地中貯留およびモニタリング
- 3) CCUS に関する革新的技術
- 4) デモスケールのプロジェクトの運営
- 5) CCS の社会的受容

□協力の形態

- 1) 共同研究
- 2) 共通課題、技術・手法の調査・研究における協力
- 3) 共同プロジェクトへの参加による研究者育成
- 4) 研究者の相互訪問
- 5) 科学・技術情報の交換 等

※2 CCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage)： CCSに加え、分離・回収した二酸化炭素を有効利用する技術も含めたもの

3. KCRC(http://dh120.myelhub.com/_ENG/html/main.html)について

KCRCは、2011年12月に韓国未来創造科学部(Minister of Science, ICT and Future Planning)により設立され、韓国における革新的なCCS技術の開発及びCCSの基盤構築を行う組織として Korea CCS 2020 Project を推進していますが、次のような役割を担っています。

(役割)

- ・CCSのコア技術の開発
- ・研究開発方針、計画の策定
- ・試験プラントや最適化のためのプラットフォームの構築
- ・国際協力の推進
- ・成果の商業化
- ・CCSに関する教育・広報活動

【参考】 RITE の CCS における国際交流の例

(米国) ・ローレンス・バークレー国立研究所(LBNL)

CO₂の地中貯留におけるCO₂挙動予測に関する共同研究

・エネルギー技術研究所(NETL)

CO₂固体吸収材に関する共同研究

(中国) ・中国石油(CNPC)

CCS-EOR(原油増産回収)に関する共同研究

(豪州) ・オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)

RITE 開発吸収液のプラント試験に関する共同研究

本件に関するお問合せ先：

(公財) 地球環境産業技術研究機構

企画調査グループ 広報・産業連携チーム 中村、大西、辰巳

TEL : 0774-75-2301 FAX : 0774-75-2314